



KANADEN

2025年3月期 第2四半期(中間期)

決算説明会資料

株式会社カナデン | 証券コード：8081

2024年11月6日

2025年3月期 第2四半期（中間期）

決算説明会

1. 2025年3月期
第2四半期（中間期）決算概要
2. 2025年3月期 業績・配当予想
3. 中期経営計画 ES・C2025
4. 持続的な企業価値向上に向けて

ディスクレーマー

当資料は投資家の参考に資するため、株式会社カナデン（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。記載内容は、2024年11月6日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。本発表にて提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みますが、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

1. 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

決算サマリー（連結）

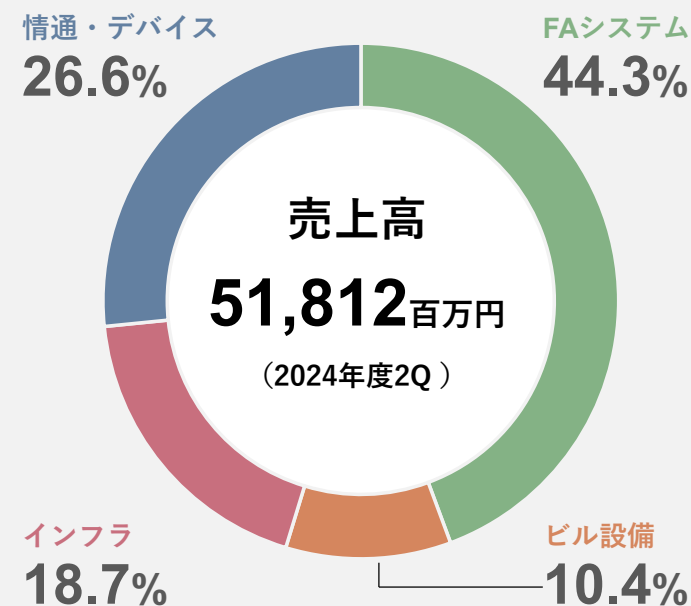
KANADEN

- 前期に大口案件が集中した情通・デバイス事業の電子医療装置の反動減
- 製造業における在庫調整が継続しFA分野が苦戦

（単位：百万円）

	2023年度2Q	2024年度2Q	増減率
売上高	53,647	51,812	△3.4%
売上総利益	7,994	7,908	△1.1%
利益率	14.9%	15.3%	
営業利益	1,846	1,516	△17.9%
利益率	3.4%	2.9%	
経常利益	2,202	1,530	△30.5%
利益率	4.1%	3.0%	
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,476	891	△39.6%

セグメント別売上構成比



セグメント別の状況

FAシステム事業



売上高 22,973百万円 (+7.7%)

経常利益 1,150百万円 (△0.3%)

POINT 主なポイント

FA分野

中国経済の成長鈍化や在庫調整の影響により
コントローラシステムや駆動制御機器を中心に低調
に推移し減少

産業メカトロニクス分野

放電・レーザー加工機が前年並みで推移

産業システム分野

船舶用の電機品の大口案件や工場設備向けの
計装システムが好調に推移し増加

Copyright © KANADEN CORPORATION. All rights reserved.

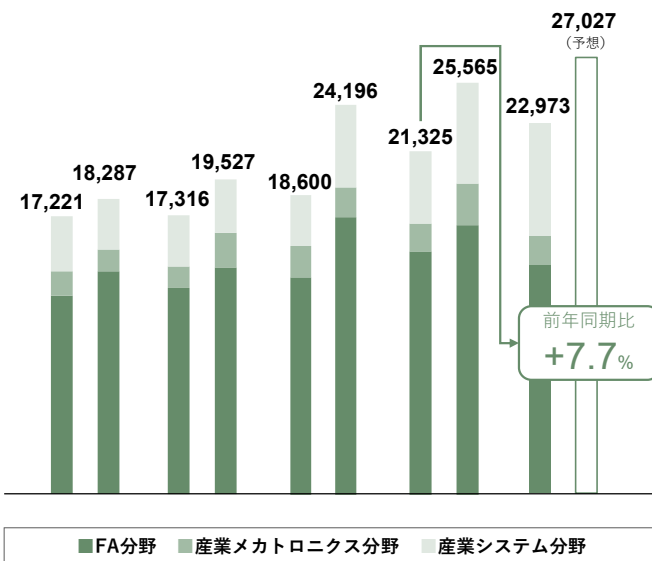
KANADEN

産業システム分野が好調に推移したものの、製造業における在庫調整の影響により
FA分野が苦戦

■売上高

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
35,508	36,843	42,796	46,890

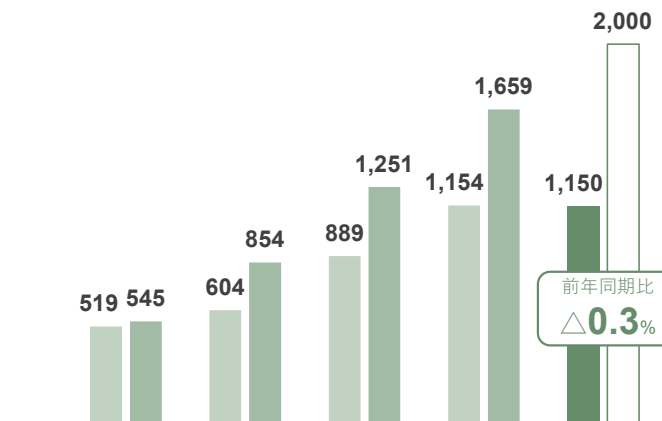


上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

■経常利益

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
1,064	1,458	2,140	2,813



上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

セグメント別の状況

ビル設備事業



売上高 5,364百万円 (△10.8%)

経常利益 △65百万円

POINT 主なポイント

設備機器分野

情報・通信事業者向け電源設備は需要が継続し堅調に推移したものの、昇降機の場合は減少

空調・冷熱機器分野

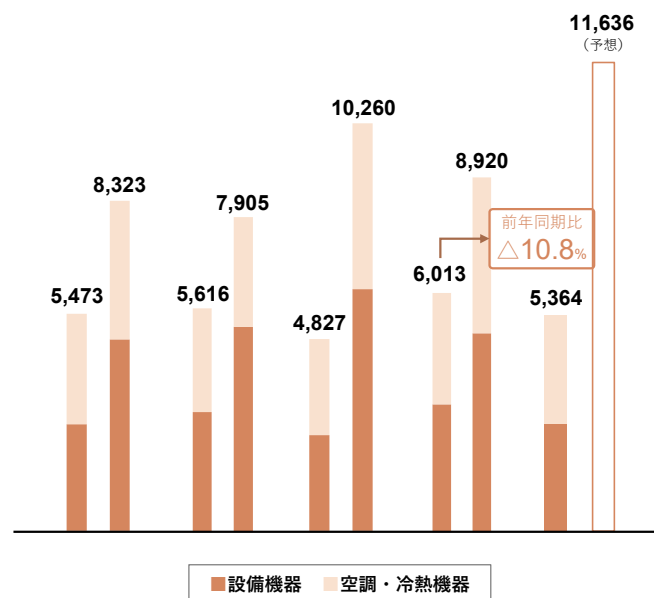
オフィスビル向け空調機器が低調に推移し減少

電源設備は前年並みを維持したものの、
昇降機の案件減少やオフィスビル向け空調機器の需要が鈍化し苦戦

売上高

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
13,796	13,521	15,087	14,933

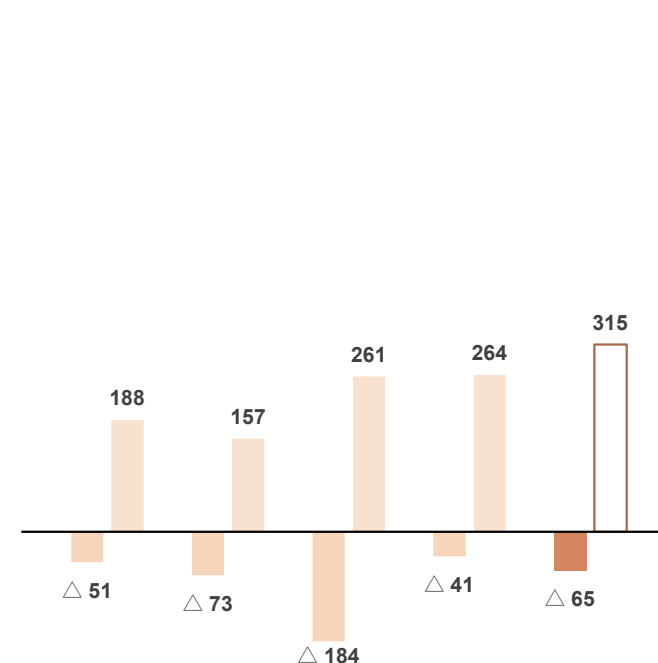


上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

経常利益

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
137	84	77	223



上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

セグメント別の状況

インフラ事業



売上高

9,709百万円 (+7.9%)

経常利益

△256百万円

POINT 主なポイント

交通分野

車両用機器は、更新需要の端境期で減少したものの無線通信機器・受変電設備が好調に推移し増加

社会システム分野

官公庁案件が前年並みで推移

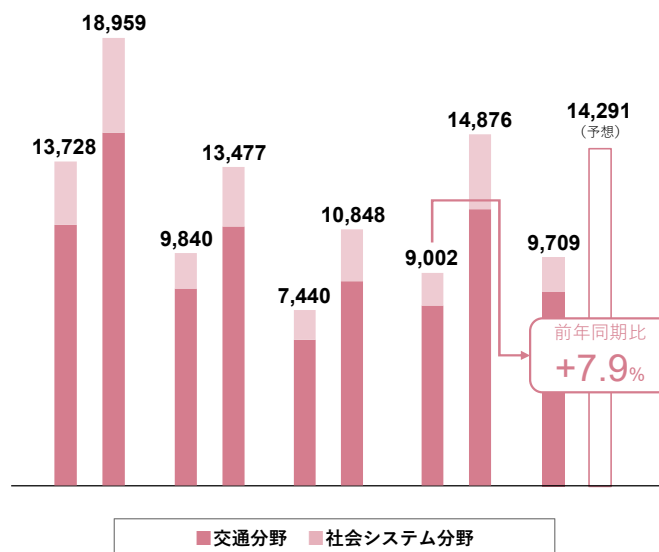
KANADEN

交通分野、社会システム分野はともに増収であるものの、大口案件の比重が高く、利益率が低下し減益

■売上高

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
32,687	23,317	18,288	23,878

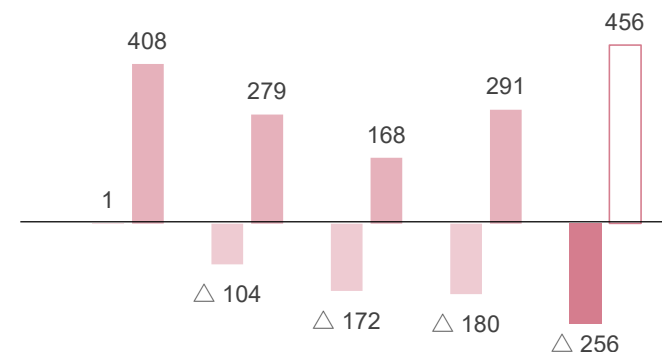


上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

■経常利益

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
409	175	△4	111



上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

セグメント別の状況

情通・デバイス事業



売上高 13,764百万円 (△20.5%)

経常利益 780百万円 (△20.2%)

POINT 主なポイント

半導体・デバイス分野

産業機器向けパワーデバイス：
在庫調整の影響を受けながらも前年並みで推移
電子デバイス品：
家庭用電気機器向けが低調に推移

情報通信分野

金融機関向け画像・映像機器が更新需要の一巡により
低調に推移し減少

電子医療装置は、前期の大口案件の剥落により減少

Copyright © KANADEN CORPORATION. All rights reserved.

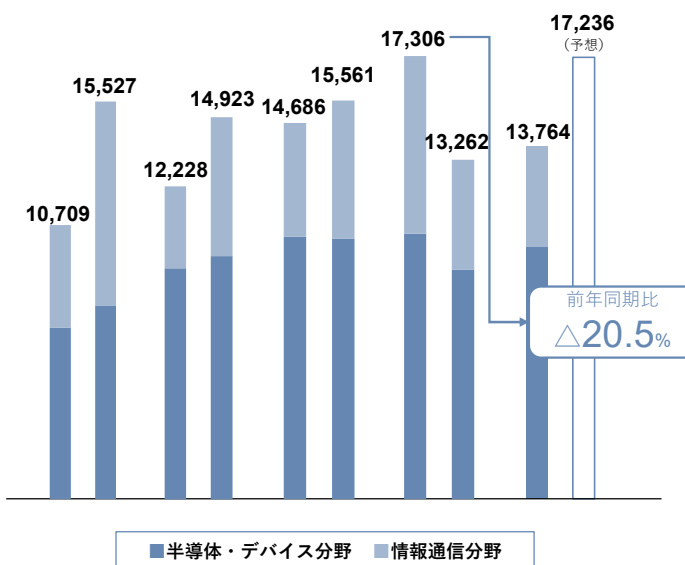
KANADEN

半導体・デバイス分野は、在庫調整の影響により低調
電子医療装置の大口案件の剥落により減少

■売上高

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
26,236	27,151	30,247	30,568

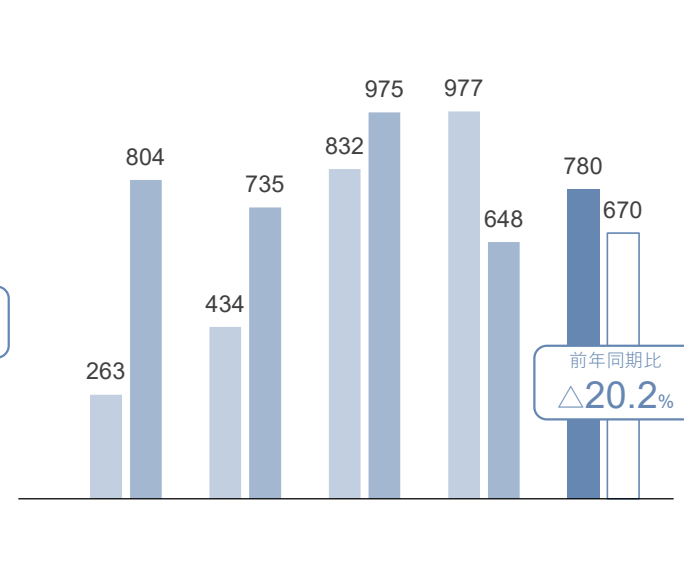


上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

■経常利益

(百万円)

通期実績	通期実績	通期実績	通期実績
1,067	1,169	1,807	1,625



上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 上期 下期
2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

BSの状況

KANADEN

- 流動資産 売掛債権△6,864、商品及び製品△1,569、未収入金△709
- 流動負債 買掛債務△8,232、1年内返済予定の長期借入金△702
- 純資産 利益剰余金+207、その他包括利益+184、非支配株主持分△162

(単位：百万円)

	2024/3末	2024/9末	増減
流動資産	68,404	59,435	△8,968
商品及び製品	11,294	9,724	△1,569
固定資産	17,192	16,623	△568
有形固定資産	8,584	8,361	△223
無形固定資産	3,083	3,077	△6
投資その他資産	5,524	5,185	△338
資産合計	85,596	76,059	△9,537

(単位：百万円)

	2024/3末	2024/9末	増減
流動負債	36,687	26,839	△9,847
固定負債	705	766	60
負債合計	37,392	27,605	△9,786
株主資本	44,479	44,707	227
その他	3,724	3,746	22
純資産合計	48,204	48,453	249
負債純資産合計	85,596	76,059	△9,537

CFの状況

KANADEN

(単位：百万円)

	2023年度2Q	2024年度2Q
営業キャッシュ・フロー	2,651	1,223
投資キャッシュ・フロー	333	△108
財務キャッシュ・フロー	△514	△1,400
現金及び現金同等物に係る 換算差額	243	237
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,713	△47
現金及び現金同等物の期首残高	14,635	16,947
現金及び現金同等物の中間期末残高	17,349	16,900

主なポイント

営業キャッシュフロー

- 税金等調整前中間純利益 +1,646
- 売上債権の減少 +6,858
- 仕入債務の減少 △8,282

投資キャッシュフロー

- 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 +118
- 有形固定資産の取得による支出 △286

財務キャッシュフロー

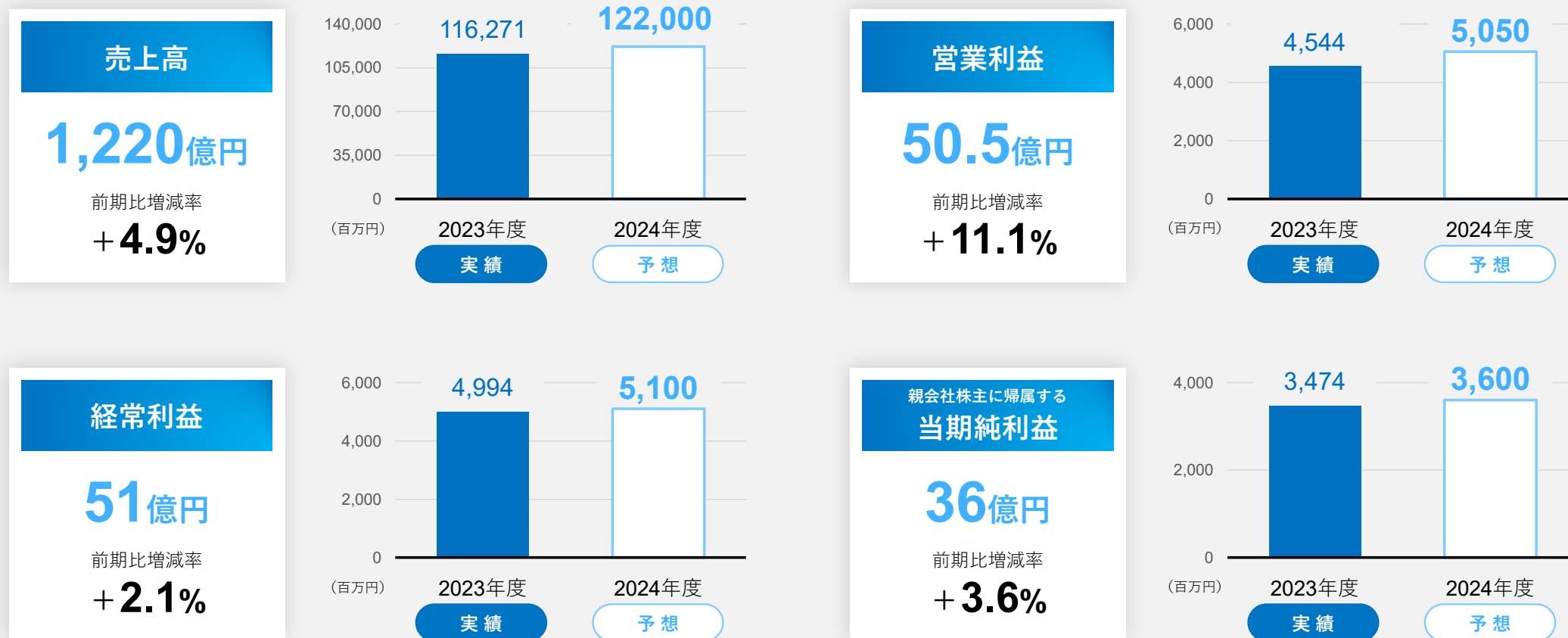
- 長期借入金の返済による支出 △702
- 配当金の支払による支出 △680

2. 2025年3月期 業績・配当予想

2025年3月期 業績予想

KANADEN

- 中国をはじめ海外経済の減速や半導体分野を中心とした在庫調整など、先行き不透明な状況で推移するものと予想
- 自動化やDX、脱炭素化を中心とした企業の設備投資は堅調に推移するものと予想し、当初の年間業績予想達成を目指す



2025年3月期 セグメント別予想

KANADEN

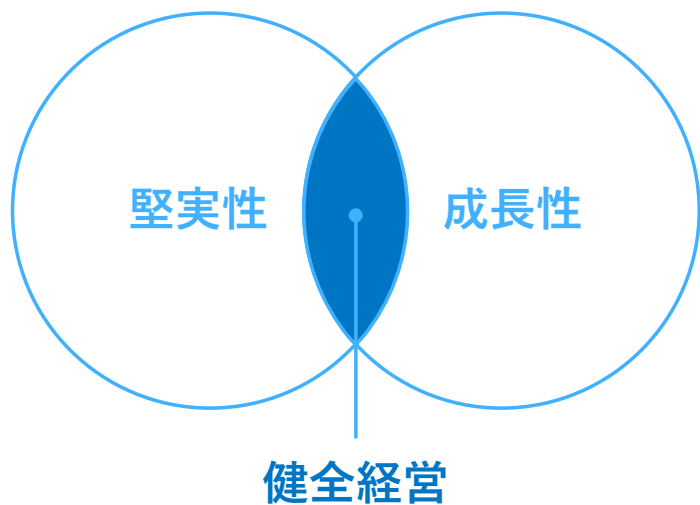
- FA、半導体・デバイス分野ともに在庫調整の回復を見込む
- 自動化、環境関連投資を積極的に取り込みソリューションビジネスの展開強化を図る

		2023年度 (百万円)	2024年度 (百万円)	前期比増減率 (%)
		実績	予想	
FAシステム 自動化・脱炭素化需要が堅調に推移	売上高	46,890	50,000	6.6%
	経常利益	2,813	3,150	12.0%
ビル設備 空調・冷熱機器の需要回復と電源設備案件の取り込み	売上高	14,933	17,000	13.8%
	経常利益	223	250	11.9%
インフラ 設備更新需要の継続	売上高	23,878	24,000	0.5%
	経常利益	111	200	79.7%
情通・デバイス 年度後半には在庫調整の局面から脱した回復を見込む	売上高	30,568	31,000	1.4%
	経常利益	1,625	1,450	△10.8%

配当予想及び株主還元について

- 堅実性と成長性を併せ持った「健全経営」を確実に推し進めていくため、将来の事業展開と企業体質の強化に必要な内部留保を確保しつつ配当性向40%を基準指標に安定した配当の維持継続に努める

配当方針

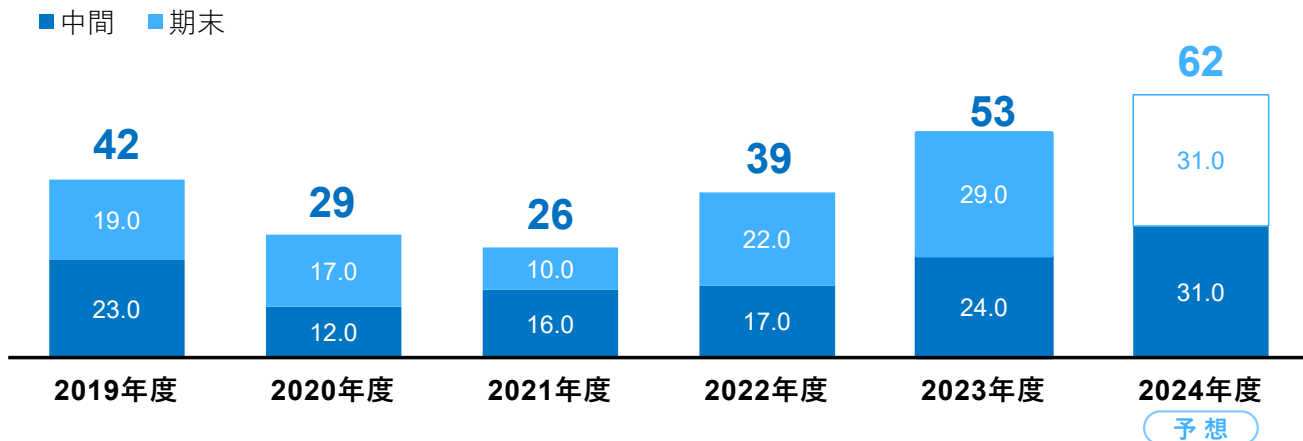


基準指標

配当性向 **40%**

配当金の推移

(単位：円)



配当性向					
35.0%	35.0%	36.2%	35.2%	35.8%	40.4%
期末発行済株式数（自己株式を除く）					
2,850万株	2,682万株	2,663万株	2,343万株	2,345万株	—
自己株式取得					
—	170万株	16万株	323万株	—	—

3. 中期経営計画 ES・C2025

基本方針 SDGsへの取り組みを通じて、社会課題の解決に貢献



最終年度 数値目標

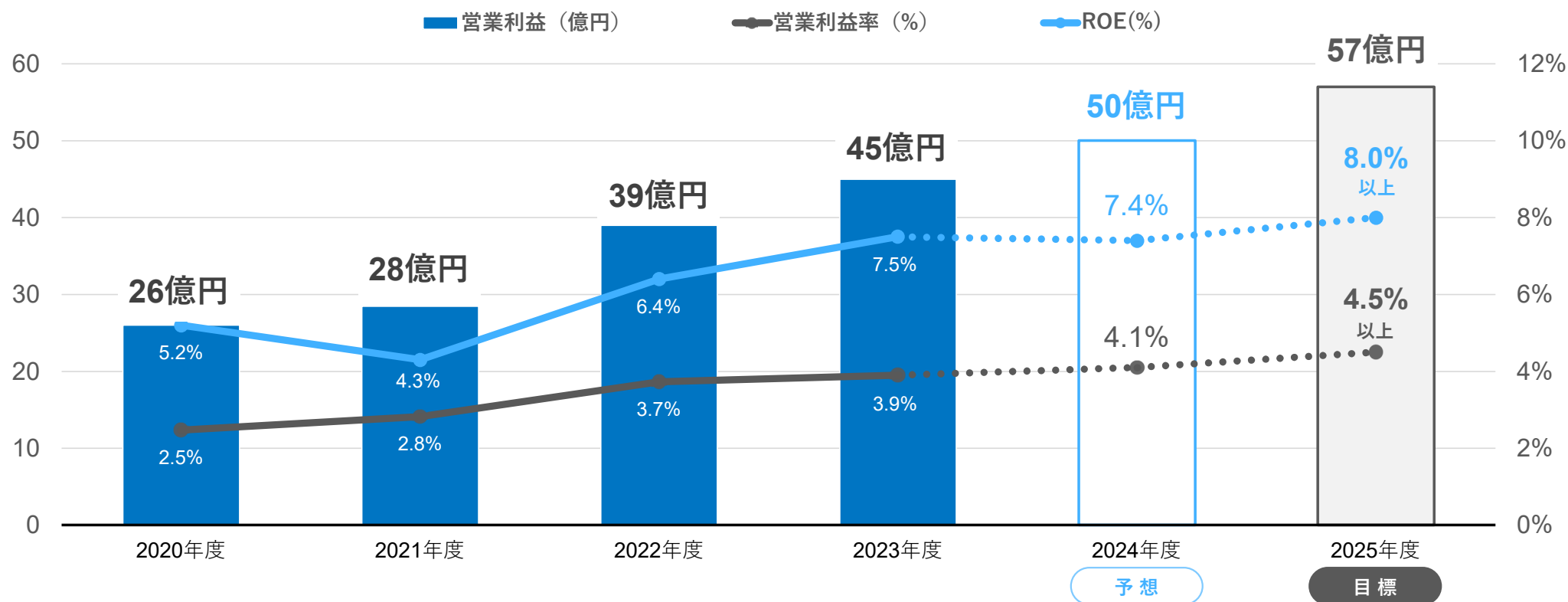
最終年度 数値目標	2020年度実績		2025年度目標	
	2020年度実績		2025年度目標	
営業利益	26億円	▶	57億円	
	利益率2.5%		利益率4.5 %以上	
ROE	5.2%	▶	8.0 %以上	
戦略的投資	売上高100億円の創出			

中期経営計画『ES・C2025』数値目標の進捗状況

KANADEN

- 各指標は増加傾向で進捗中、最終年度（2025年度）の目標達成に向けて各種施策を着実に実行

営業利益・営業利益率・ROEの推移



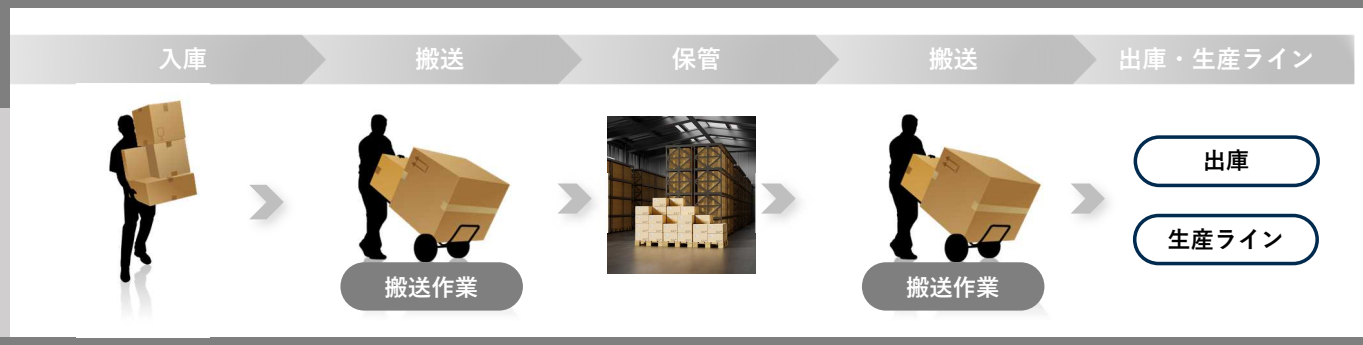
ES・C2025 基本戦略に関連するトピックス (1/2)

KANADEN

- 深化・進化による競争力の強化：物流・搬送業務の自動化ソリューション
- お客様の環境に合わせた自動化ソリューションで人手不足・作業効率の改善に貢献

物流・搬送業務の課題

- 働き方改革の影響や労働人口の減少により、物流・製造業においても人手不足が深刻化



自動化ソリューション

人手不足・作業効率の改善に貢献

- 製品（AGV、AMR）+システム設計でお客様の環境に合わせたソリューションを展開
- 豊富な製品知識を活かしてお客様に合った製品を提案



ES・C2025 基本戦略に関連するトピックス (2/2)

KANADEN

● カナデンDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進：インサイドセールス、補助金サポートサービス

環境・DX 関連商材の拡充

インサイドセールスとフィールドセールスの両輪体制で
ハイブリット型のビジネスモデルを強化

今後も需要が見込まれる領域へアプローチ

環境関連

EV充電器

client

自動車業界
住宅管理会社 等



環境関連

Kana:Recircular

client

食品業界 等



DX関連

OTセキュリティ

client

製造業

見込み顧客獲得に向けた取り組み

受注

商談

見込み顧客獲得

取扱製品を様々な業界のお客様へ
分かりやすくアピール

製品サイト

SEO

補助金サポートサービス

メルマガ 四コマ漫画

etc



4. 持続的な企業価値向上に向けて

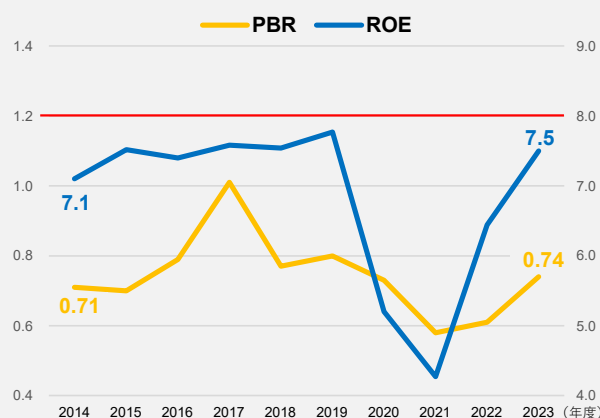
財務戦略 現状認識と課題

KANADEN

- 中計の基本方針・基本戦略の着実な実行による収益力の強化と資本効率の向上を図り、ROEを向上させることがPBR・PERの改善につながるものと認識

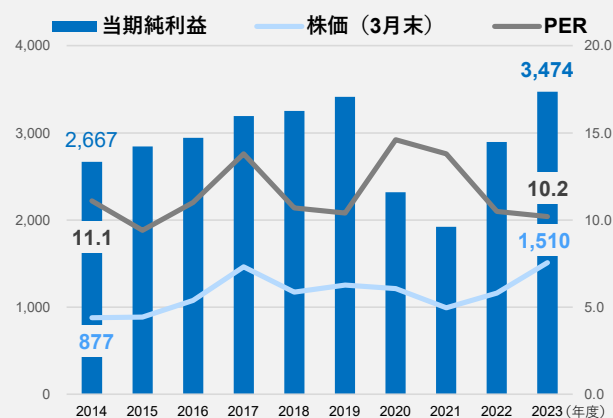
現状認識

ROE・PBR相関関係



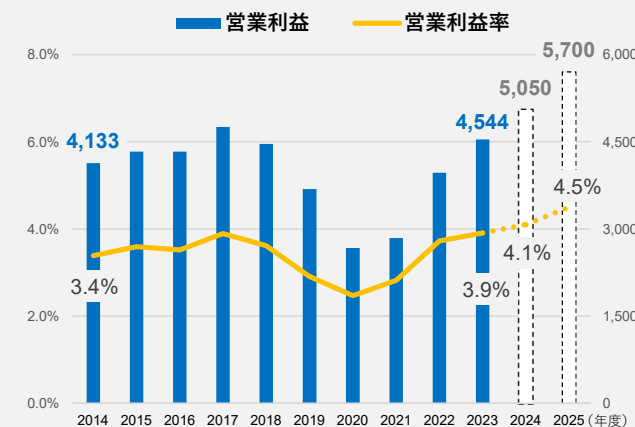
- ROEは、直近24年3月期 7.5%と8%を下回る状態で推移
- PBRは、現状0.7倍程度、1.0倍を下回る状態で推移

当期利益・株価・PER相関関係



- PERは、1株当たり純利益は増加傾向であるが、足元では10倍程度と割安な状況
- 自己資本比率は、50～60%と財務的には安定的な状況

営業利益・営業利益率



- 営業利益額・営業利益率は、中計開始前より右肩上がりで推移、直近24年3月期 営業利益額45億、利益率 3.9%

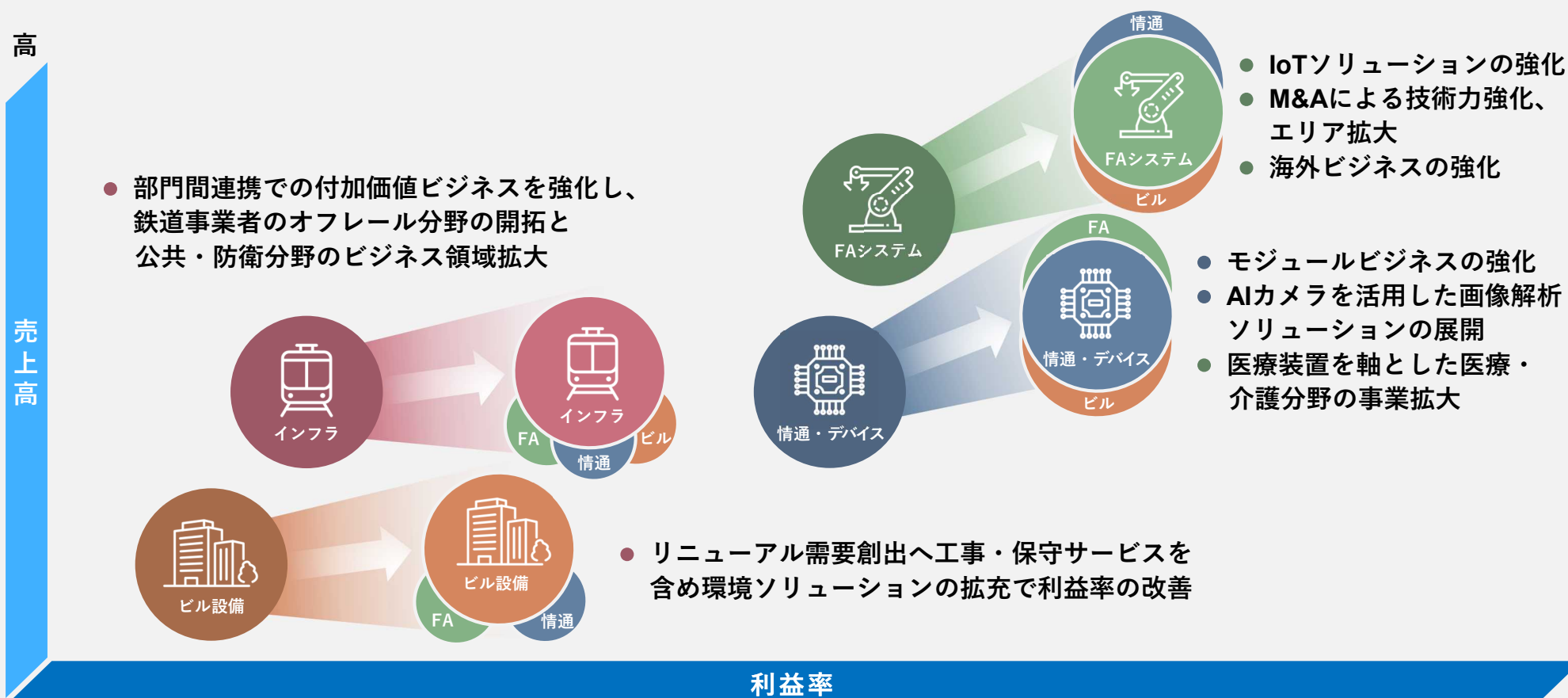
課題

1. 収益力・収益構造強化

2. 積極的な成長投資

3. 資本効率、株価を意識した経営

- FAシステムと情通・デバイスが規模を拡大しつつ、インフラとビル設備含む各セグメントで利益率の向上を図る



財務戦略 キャッシュアロケーション

KANADEN

- 持続的成長によりキャッシュフローを創出し、財務バランスを意識した新たな成長投資と魅力ある株主還元を両立

財務資本

(ES・C2025 キャッシュイン)

フリー・キャッシュフロー
(5年間累計)
約**150億円**～ 創出

営業CF改善・収益確保

2021.3
現金同等物 約**168億円**

キャッシュ使用

(ES・C2025 投資額)

投資
投資額 **90億円**

株主還元
95億円
配当性向 40%

運転資金
90億円～130億円

人的資本
投資額 10億円

知的資本
投資額 30億円

社会関係資本
投資額 50億円

配当
配当額 56億円～

自社株買い
還元額 38億円～

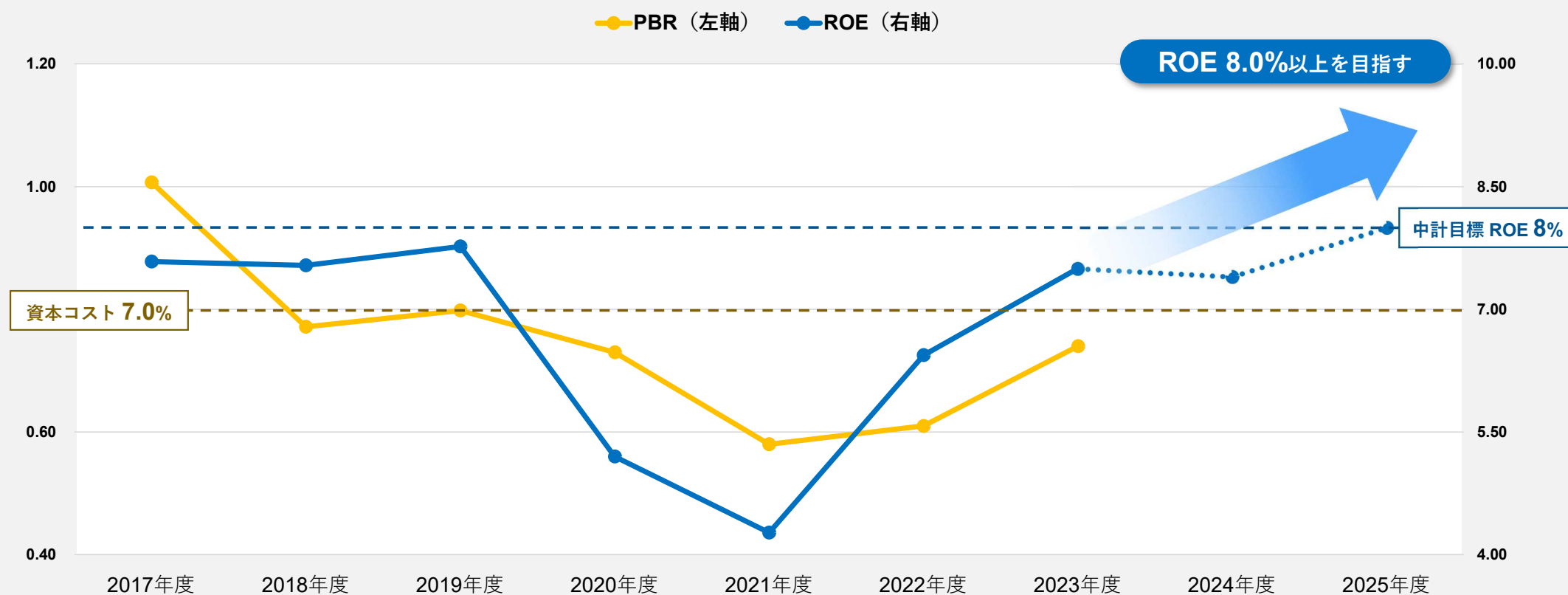
安定した財務基盤
CCC 1.4ヶ月

- プロフェッショナル人材の獲得
- 教育体系の整備と育成のさらなる充実
- 人材と働き方の多様性の推進
- 情報の蓄積・活用によるDXの推進
- 取引情報やニーズの共有によるソリューション拡充
- 新規ソリューションの開発
- M&Aによる新技術、新領域の獲得
- パートナー連携強化による新技術獲得・安定供給の実現
- 顧客ポートフォリオの多様化による収益基盤の安定性強化
- 資本効率（ROE）の向上
- 収益性の向上と安定した株主のリターンの両立
- 配当政策の更なる改善
- 2021～2022年度 自己株式取得 3,811百万円
- 機動的な自己株取得を実施
- 在庫圧縮を図り、コロナ前の水準まで改善
- 債権・債務は現状維持で収支差 1.4～1.7ヶ月
- 運転資金として1.0～1.5ヶ月分確保

財務戦略 資本コスト

KANADEN

- 資本コストはCAPMでの算定を基に7.0%程と認識しており、ROEは資本コストを上回る水準である8.0%以上を目指す。
- 資本コストを意識した経営資源の投下・配分による事業ポートフォリオ戦略の実践と適切な資本政策・株主還元の実施による資本効率の向上を図る。

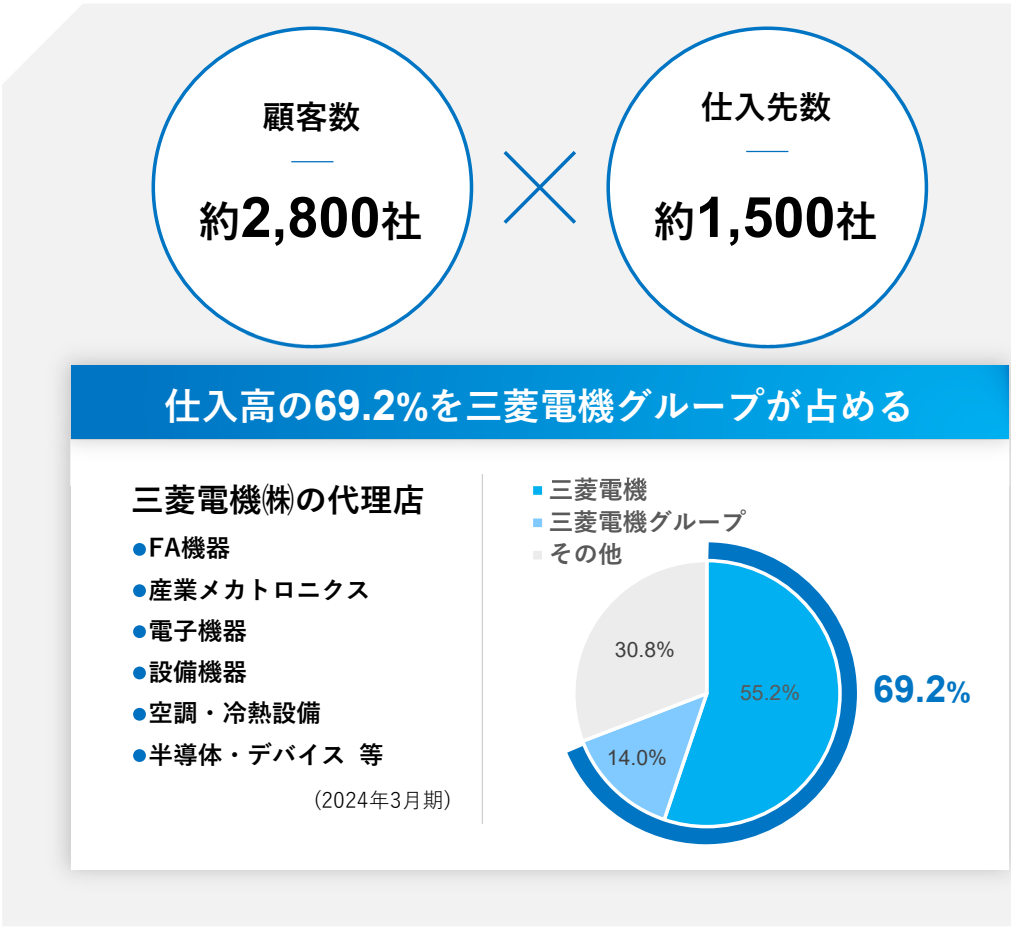


appendix

会社概要

117年を超える歴史を有するエレクトロニクスソリューションズ・カンパニー

商号	株式会社カナデン KANADEN CORPORATION		
設立	1907年 5月15日 （神奈川電気合資会社）		
創業	1912年12月18日 （神奈川電気株式会社）		
本社	東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエアZ棟		
資本金	5,576百万円		
上場市場	東京証券取引所プライム市場<コード:8081>		
代表者	取締役社長 本橋 伸幸		
従業員数 2024年3月末	連結880名		
	単体596名		
関係会社 2024年9月末	子会社	10社	（国内3社、海外7社）
	関連会社	1社	
	その他関連会社	1社	（三菱電機株式会社）



企業理念

KANADEN

社員一人ひとりが主体となって 推進する企業理念

Creating New Value for Society

お客さまやパートナー会社、
ひいては社会全体のために、
常に新しい価値を創造し続ける集団となる。
それがカナデングループのありたい姿です。

Mission

Vision

技術と創意で 一歩先の未来へ導く

カナデングループの技術と創意、
そしてパートナー会社の技術を
掛け合わせたソリューションで、
世の中をより良い未来へ導いていく。
それがカナデングループの存在意義です。

2023年5月に当社グループは、新たな企業理念を策定しました。

企業理念であるミッションとビジョンには、これまでのグループ理念の根幹となる精神を引き継ぎつつも、変化の激しいこの時代における“存在意義”、“ありたい姿”をそれぞれ込めています。

新しい企業理念は、社員一人ひとりが納得し腹落ちするものでなければいけません。部門ごとにディスカッションを行い、当社グループの存在意義とありたい姿に関して議論を交わしました。

そして、様々な事業を行う当社グループだからこそ、行動指針となるバリューはそれぞれの部門で策定し、必要に応じて見直しを図っています。

お客様のお困りごと、ひいては社会課題の解決に向け、カナデングループ一丸となって挑戦を続けていきます。

グループネットワーク

KANADEN

